

令和5年度 東三国中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査

<国語>平均正答率で全国平均を上回り、無解答率も全国平均に比べ低かった。知識及び技能においては「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「我が国の言語文化に関する事項」で全国平均を上回っていたが、「情報の扱い方に関する事項」についてはやや低かった。また、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」に比べて「読むこと」にやや課題が見られた。

<数学>平均正答率で全国平均を大きく上回り、無解答率も全国平均に比べ低かった。領域別に見ても「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」のすべてにおいて全国平均を上回っている。ただ、「図形」については他の領域に比べて正答率が低かった点が課題である。

<英語>平均正答率で全国平均を上回り、無解答率も全国平均に比べ低かった。領域別に見た場合、「読むこと」、「書くこと」では全国平均を上回っているが、「聞くこと」についてはやや低かった点が課題である。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

5教科すべての平均点で大阪府・市平均を上回り、無解答率も府・市平均に比べて低かった。全国学力・学習状況調査に続いて、一定の成果が表れている。一方で、記述式の問題になると正答率が下がるという課題が多くの教科で見られた。

○大阪市英語力調査(GTEC)

4技能すべてで大阪市平均を大きく上回り、CEFR A1レベル相当以上の生徒の割合も66%を超えた。

○中学生チャレンジテスト(1・2年生)・チャレンジテストplus

2年生では5教科すべてにおいて大阪府平均を上回り、無回答率も低かった。また1年生時に比べて向上が見られる。1年生はチャレンジテストの国語、数学、英語の3教科で大阪府平均を上回り、チャレンジテストplusの社会は大阪市平均を上回り、理科は市平均と同じであった。1・2年生ともに日頃の学習の成果が表れている。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

男子は握力、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とびの5種目で全国平均を上回り、女子は体力合計点を含め、ハンドボール投げ以外のすべての種目で全国平均を上回った。また、「運動やスポーツをすることは好きですか」の質問に対しては、男子の78.3%、女子の67.5%が肯定的に回答しているが、1週間の総運動時間が60分未満(体育の授業を除く)の生徒の割合は、男子で16.7%、女子で31.3%であった。

【今後に向けて】

全国学力・学習状況調査、チャレンジテスト等の結果から、各学年、各教科において日頃の学習の成果が上がっていると考えられる。ただ、領域別、分野別等でみると、まだまだ課題もあり、引き続き重点的に取り組んでいく必要がある。また、体力・運動能力においても一定の成果が表れているが、適度な運動習慣の定着など、今後取り組んでいくべき課題もある。